

障害者福祉のためのアンケート調査(精神障害者)
報 告 書

令和5年3月

石川県精神保健福祉家族会連合会

1. アンケート調査実施の目的

障害のある人達は、定期的に医療を受ける必要があり、そのために医療費が補助されることは欠かせないものです。石川県では、重症心身障害者の人達については、その医療費負担を軽減するために必要な医療費については無料となるように助成をしてきました（心身障害者医療費助成制度）。ところがこの制度の対象となるのは、身体障害や知的障害に限定されてきました。精神障害者は、精神科通院医療で自立支援医療があるだけで、医療費扶助の対象からは外されてきました。

石川県は令和元年9月に「障害のある人もない人も共に暮らしやすい石川県づくり条例」を制定し、さらに令和2年10月からは、精神障害保健福祉手帳で1級と判定された人達については、重症心身障害者と認定して、心身障害者医療費助成制度（マル障）の対象とすると決定しました。大きな前進といえますが、精神障害保健福祉手帳をもっている人達の等級は、1級3.7%、2級84.4%、3級12.0%と、1級の人達は4%にも満たないごく少数派です。残された2・3級の人達は、何ら補助が得られない苦しい暮らし向きが続いているのです。石川県の精神障害1級への処遇は大きな前進ですが、それは小さな1歩に過ぎないとも言えます。障害手帳2・3級を持つ人達の多くが、自らの医療費の支払い（特に一般科では3割負担）に苦しんでいるのです。その苦しい生活実態を調査するために、アンケート調査をすることになりました。

2. 方法

調査目的・精神障害者の暮らしや受診状況等の実態を把握することを目的とする。

調査期間：2022年9月～10月

調査方法：石川県障害者福祉のためのアンケート調査にアンケート用紙を同封して、郵送にて回収。

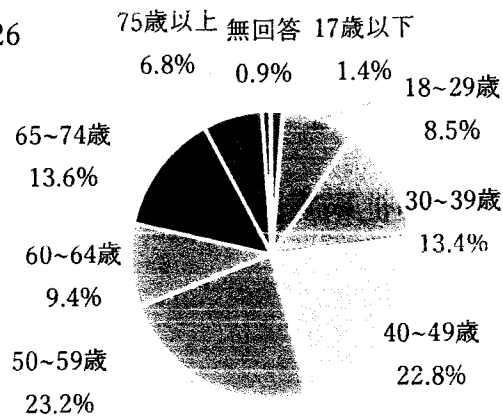
調査対象：1,030人（精神通院公費負担対象者及び精神科病院入院者の中から市町ごとに5%を抽出）

426件回答があり、回答率41.4%であった。

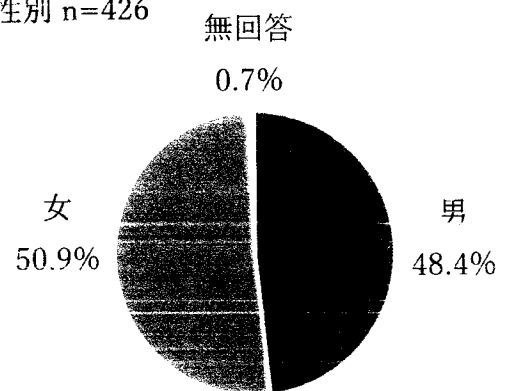
3. 結果

(1) 年齢・性別

①年齢 n=426



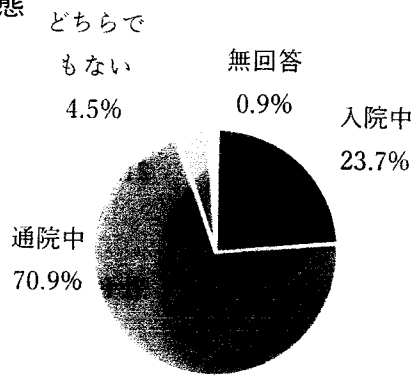
②性別 n=426



(2) 治療形態

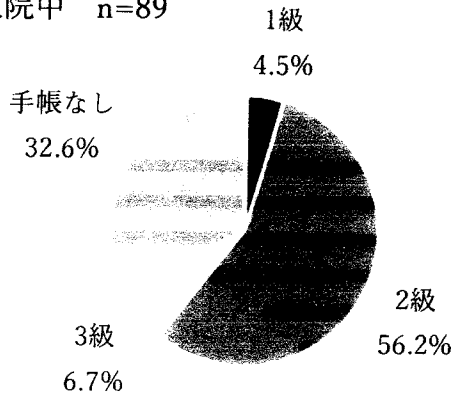
①現在の治療形態

n=426

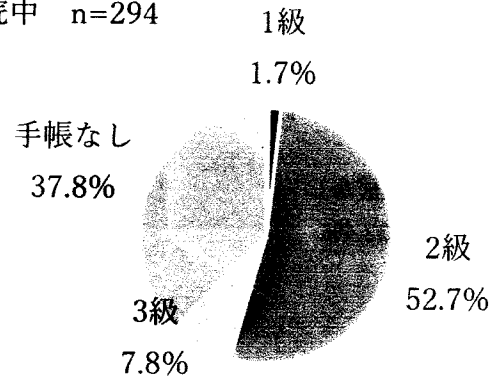


(3) 手帳の級

①入院中 n=89

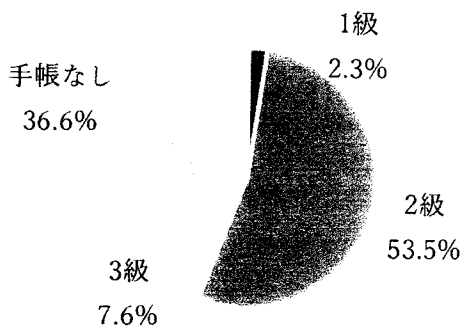


②通院中 n=294

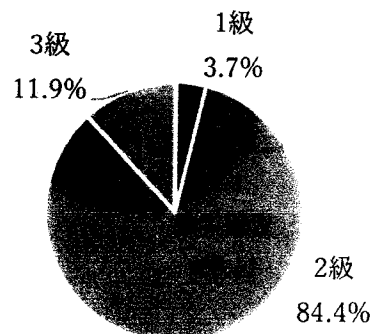


手帳の級別の割合は、入院・通院で差異は殆どない。

③手帳の級 n=383 (①+②)



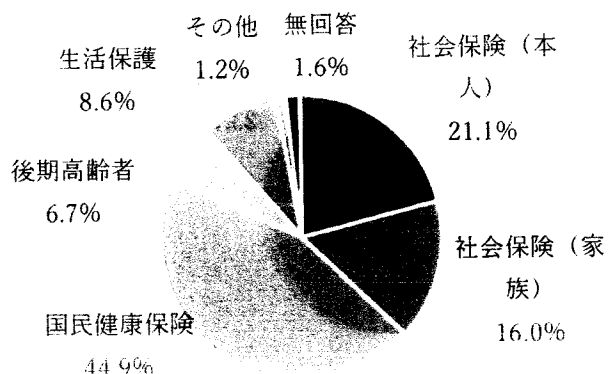
④手帳所持者のみ n=243



(4) 利用している医療保険

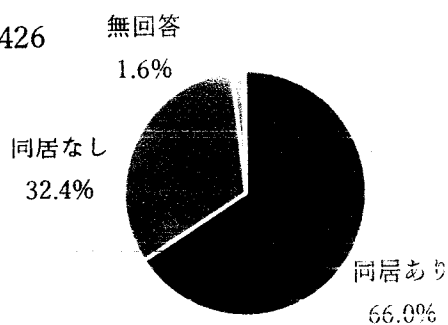
①医療保険 n=432

(複数回答あり)

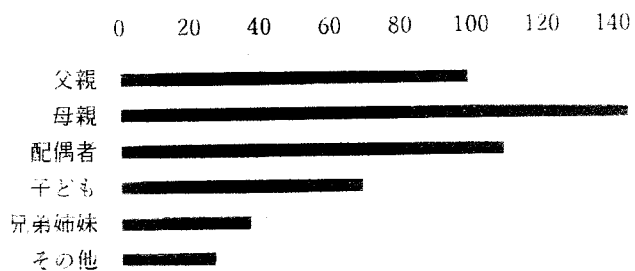


(5) 同居家族

①同居家族 n=426



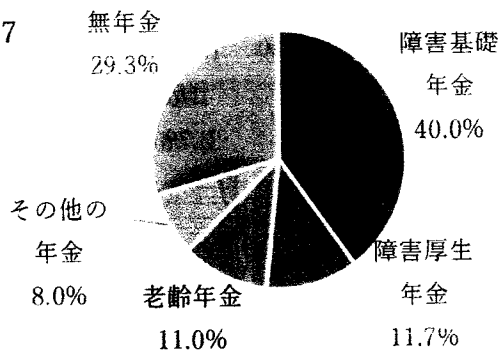
②同居する家族 (複数回答あり)



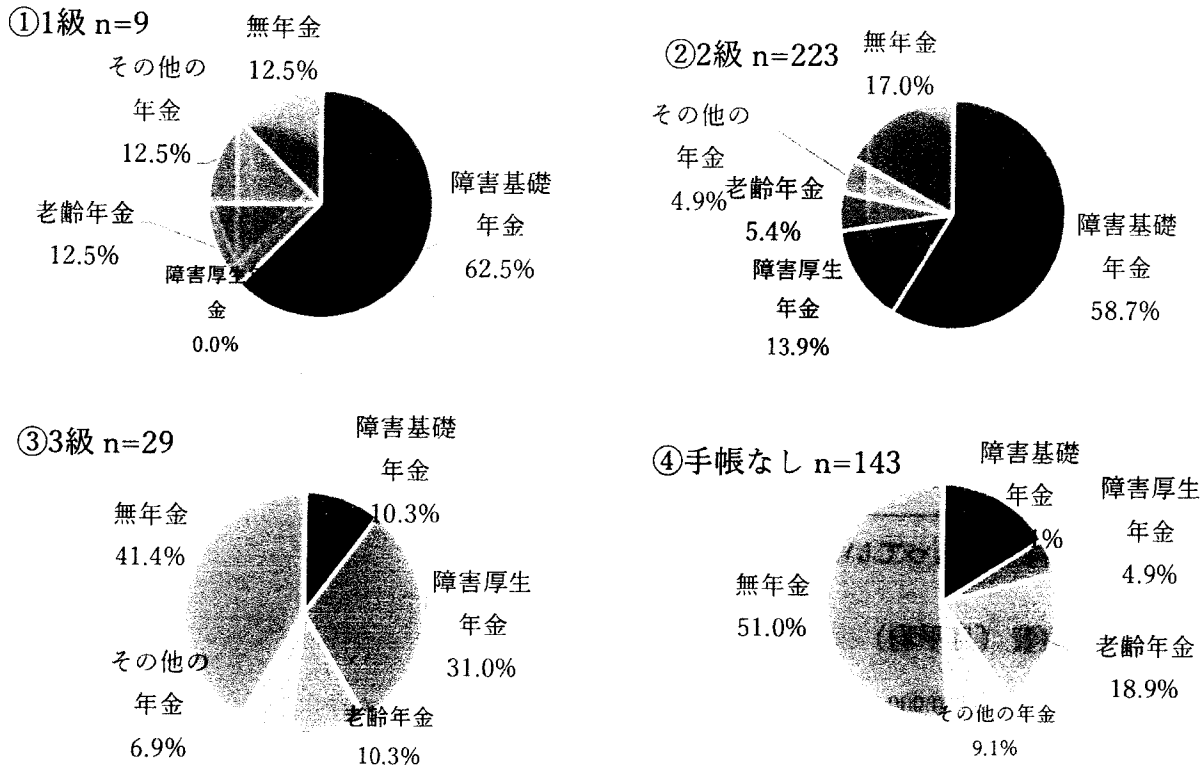
(6) 年金受給状況

①年金受給状況 (複数回答あり)

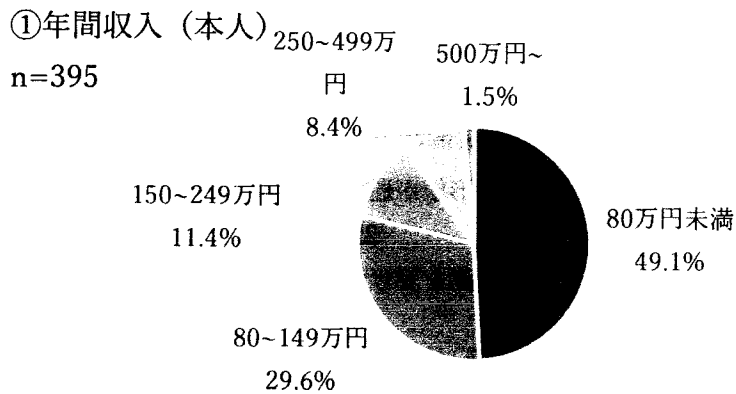
n=427



手帳等級×年金受給状況

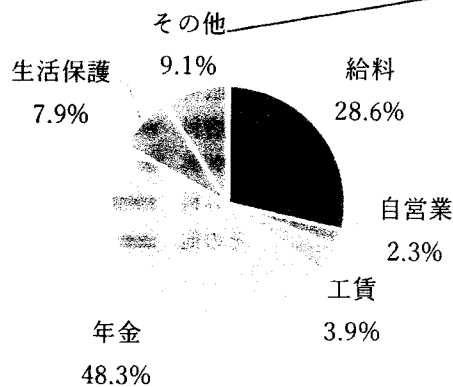


(7) 年間収入 (本人)



(8) 年収の種類 (複数回答あり)

①収入源 n=441

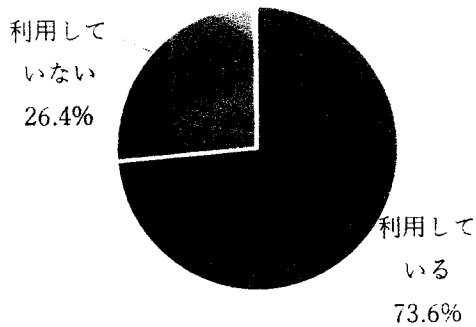


その他の内訳	
収入なし	21
家族からの援助	7
傷病手当金	5
アルバイト	2
失業保険	2
家賃収入	1
配当金	1
就労時の貯金	1

(9) 自立支援医療の利用状況

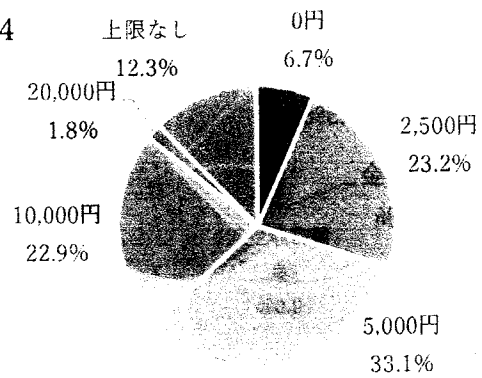
① 自立支援医療費

n=406



② 自立支援医療費利用者の上限額

n=284

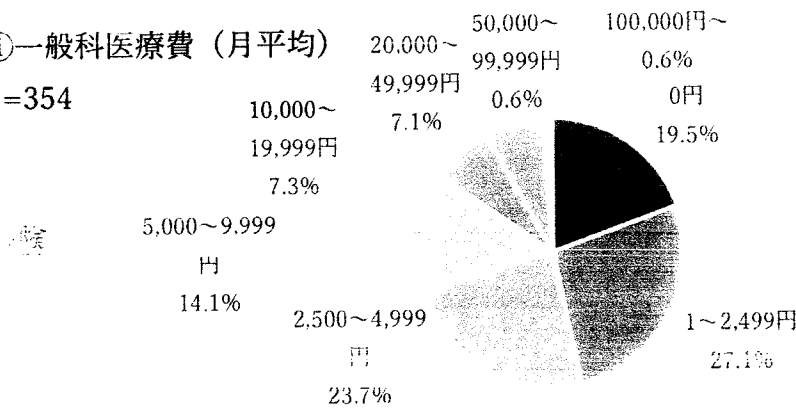


利用していない人は（入院中+支払額が少額）

(10) 一般科で支払っている医療費（月平均）

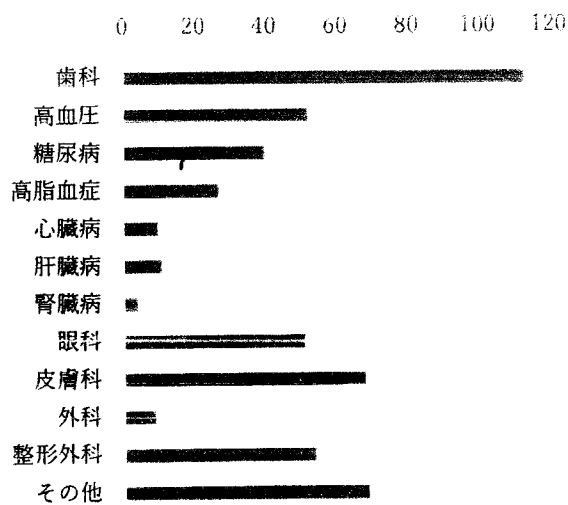
① 一般科医療費（月平均）

n=354

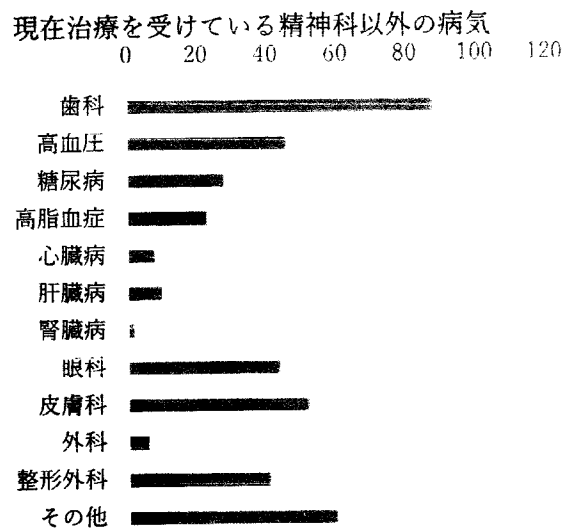


(11) 現在治療を受けている精神科以外の病気（複数回答あり）

① 現在治療を受けている精神科以外の病気 (n=281)



② 治療形態が通院中の方 n=302のうち、224名回答

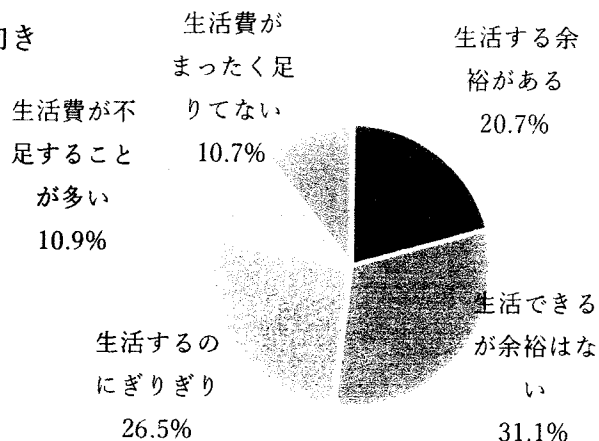


精神科以外の治療を受けている人 281 名中、213 名 75.8% が通院中

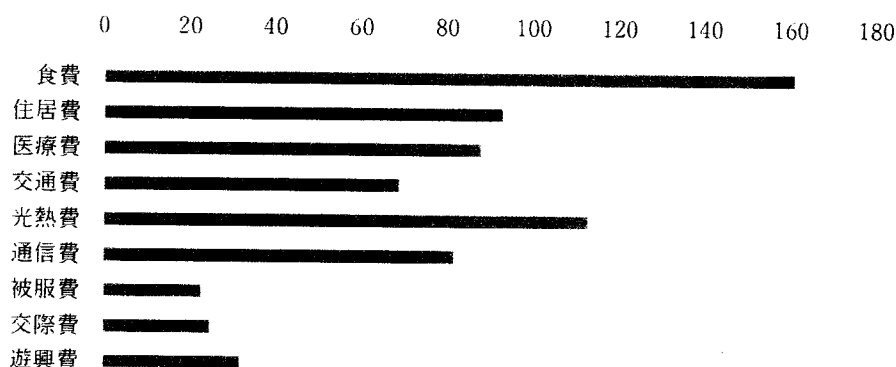
(12) 暮らし向き

①暮らし向き

n=411

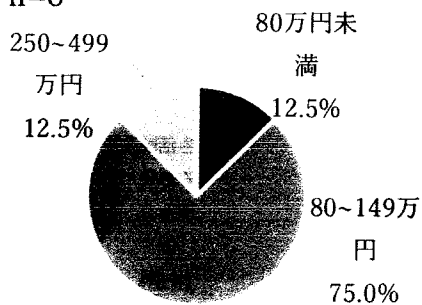


(13) ①経済的に負担を感じる出費 (複数回答あり)

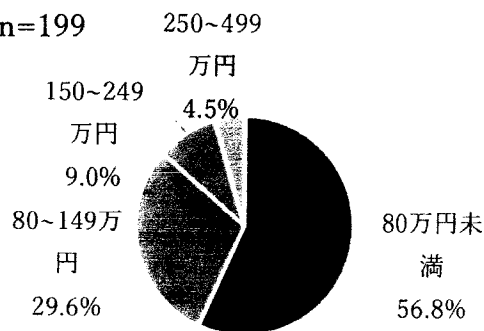


(14) 年間収入から見た比較 (手帳の級×年間収入)

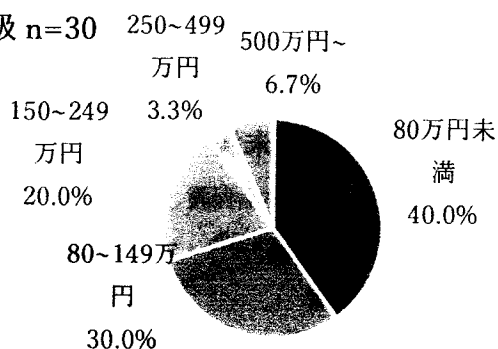
①1級 n=8



②2級 n=199



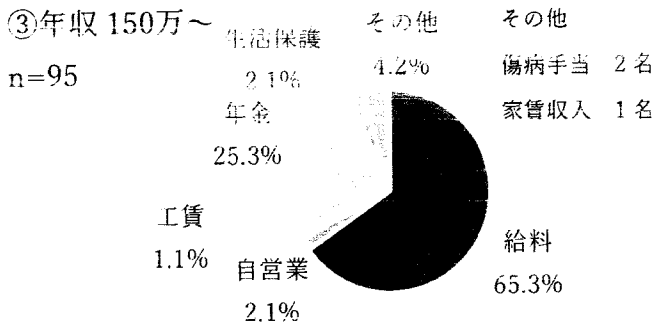
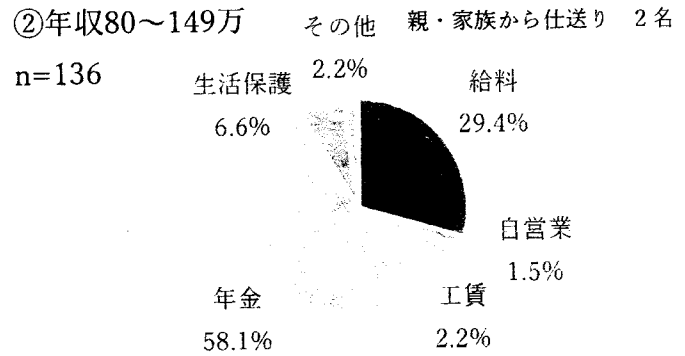
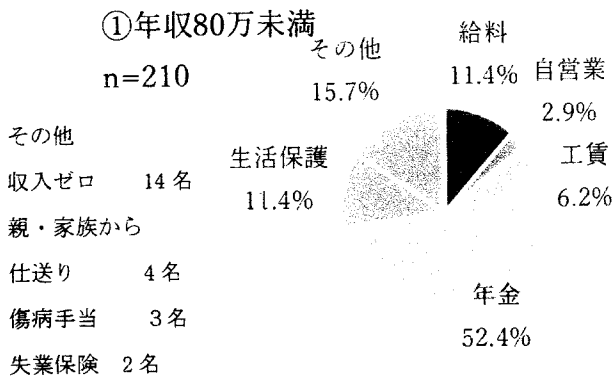
③3級 n=30



2・3級の人達、特に2級の人達では86.4%が年収150万未満である

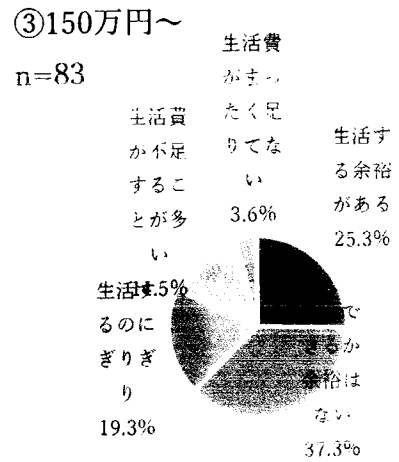
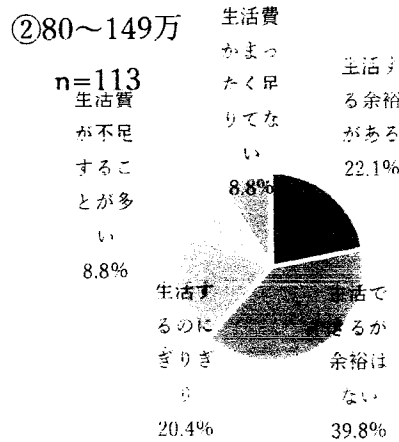
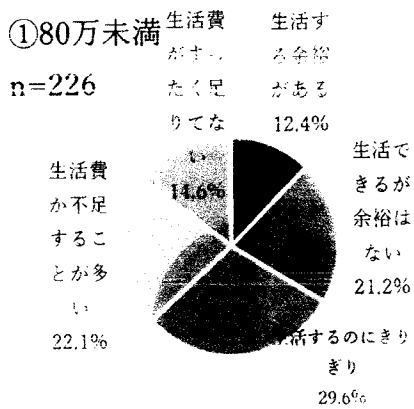
- ・手帳2級の半数以上56.8%が、年収80万円未満
- ・手帳2級で年収80万円未満が、アンケート回答者 (n=426) のうち113名で26.5%に該当する。
- ・手帳2級で年収80万円未満で、通院中は77名で、回答者 (n=426) のうち18.0%に該当する。

(15) 年間収入(本人) × 年収の種類

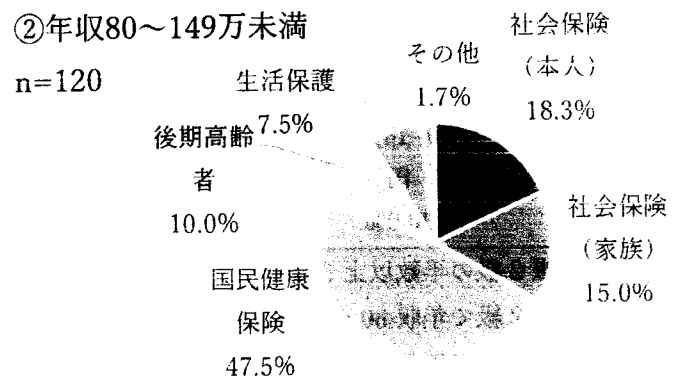
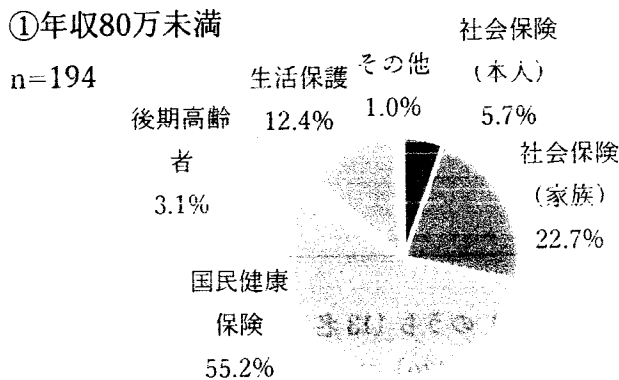


年収 80 万円未満、80~149 万は半数以上は年金を収入源としている。

(16) 年間収入(本人) × 暮らし向き

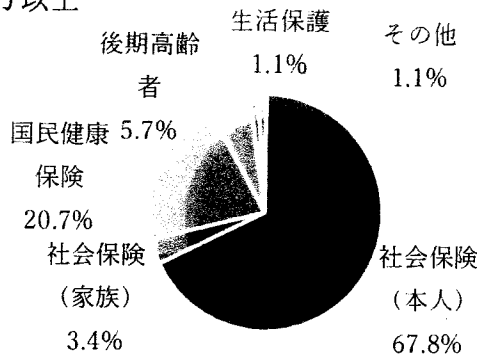


(17) 年間収入 × 医療保険



③年収150万以上

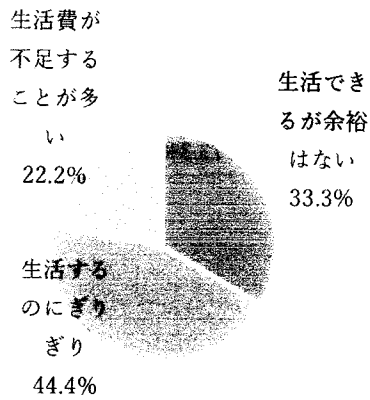
n=87



(18) 手帳の級から見た比較 (手帳の級×暮らし向き)

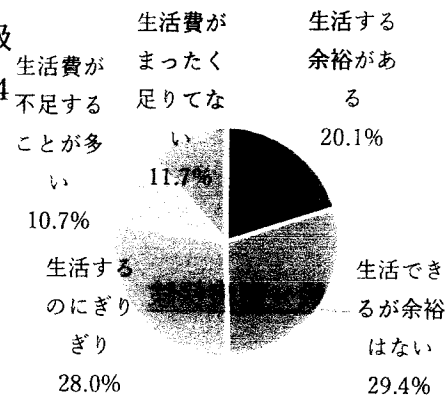
① 1級

n=9



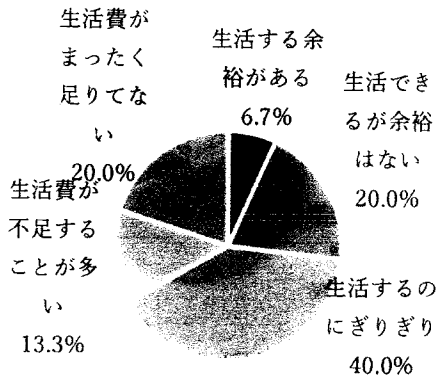
② 2級

n=214



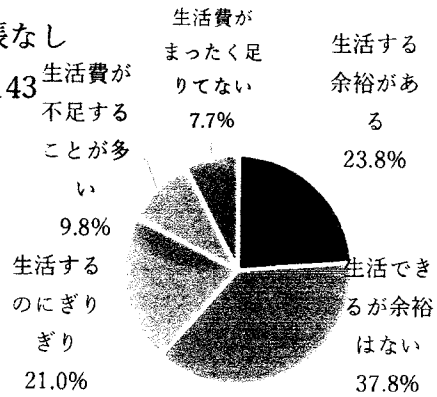
③ 3級

n=30



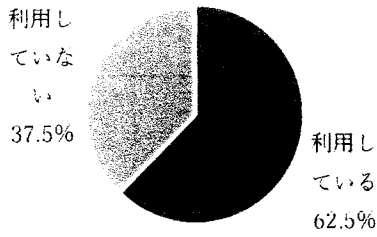
④ 手帳なし

n=143

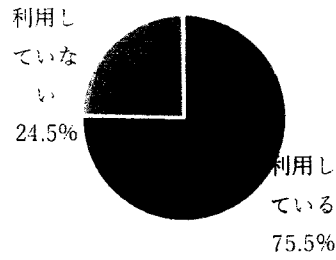


(19) 手帳の級×自立支援医療費

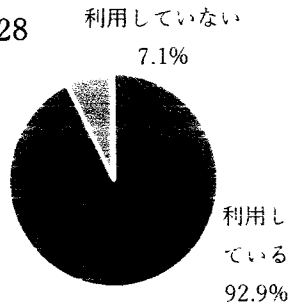
①1級 n=8



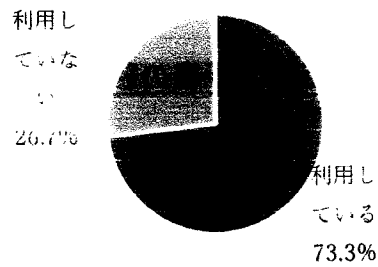
②2級 n=204



③3級 n=28

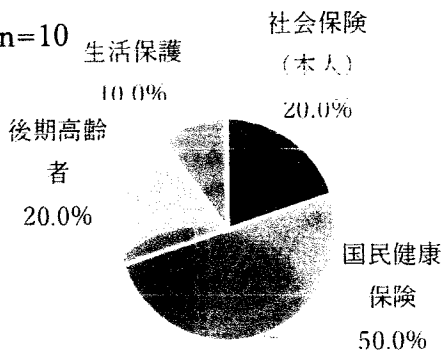


④手帳なし n=146

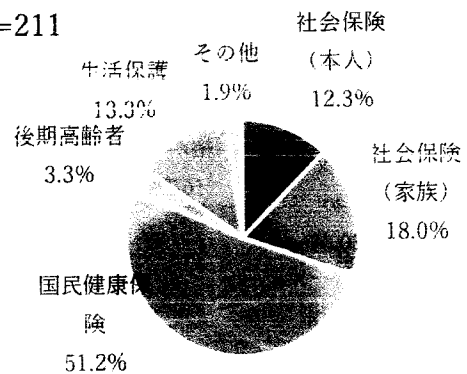


(20) 手帳の級×医療保険

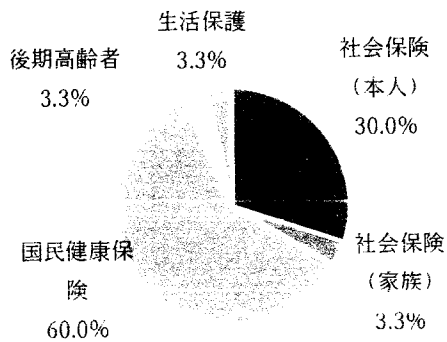
①1級 n=10



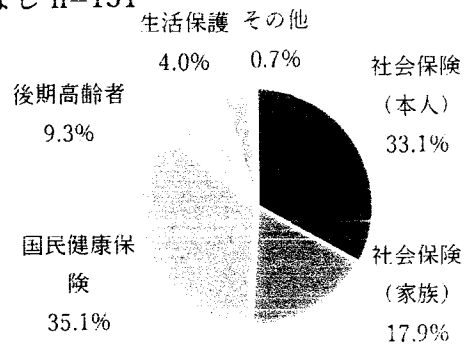
②2級 n=211



③3級 n=30

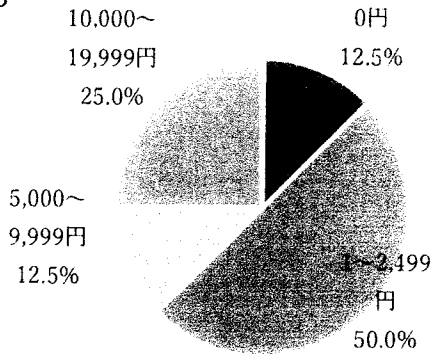


④手帳なし n=151

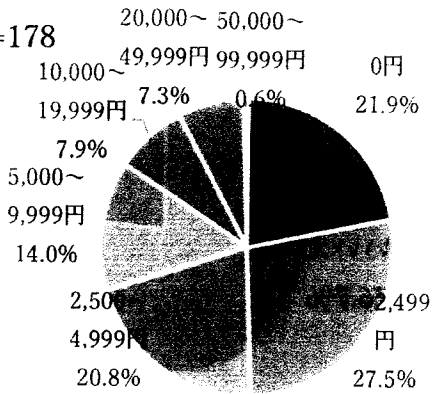


(21) 手帳の級×一般科医療費 (月平均)

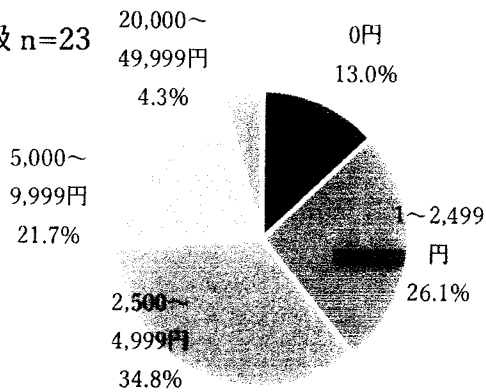
①1級 n=8



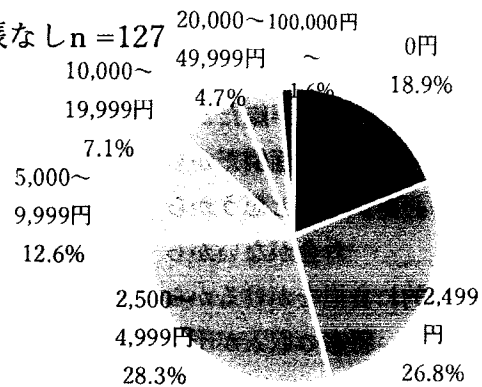
②2級 n=178



③3級 n=23



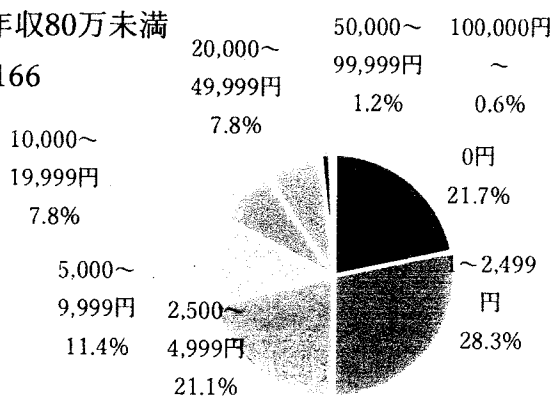
④手帳なし n=127



(22) 年間収入×一般科医療費 (月平均)

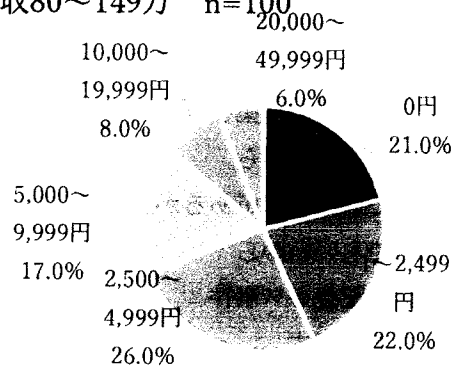
①年収80万未満

n=166



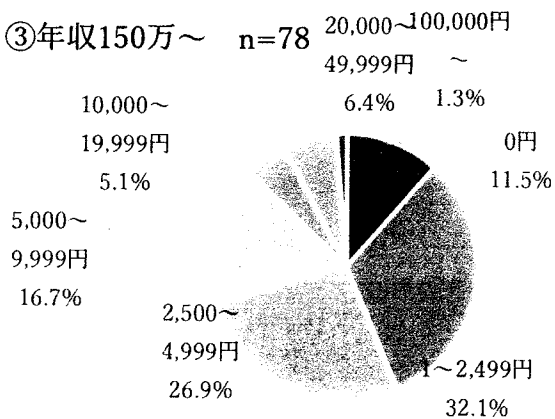
②年収80~149万

n=100



③年収150万~

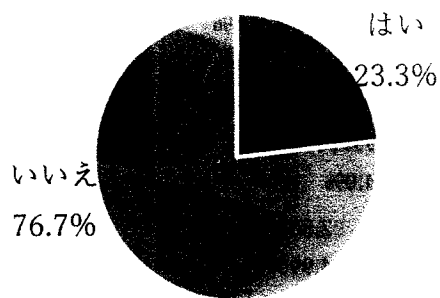
n=78



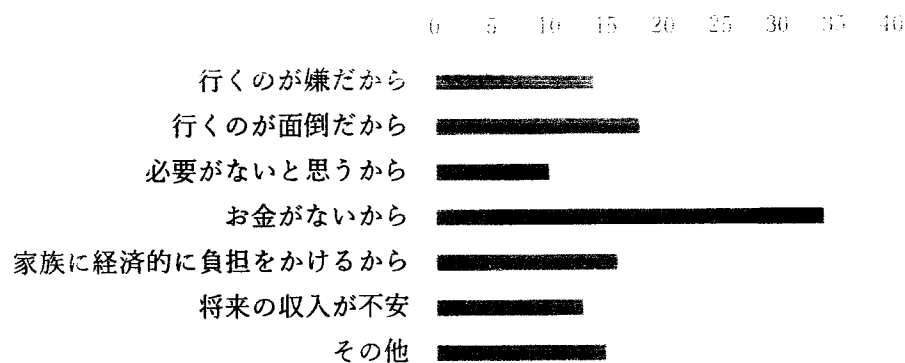
(23) 医療費抑制について

①精神科以外の病気の治療を控えている

n=408



②精神科以外の治療を控えている理由（複数回答あり）



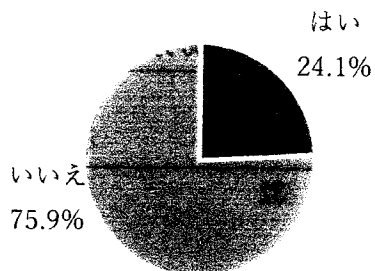
③その他の理由

- ・交通費を含めて経済的に苦しいです
- ・行く元気がない
- ・検査をして医者から薬を飲んだらいいと言われるのを待っている
- ・周囲に心配かけるから
- ・コロナ渦で外出制限があるから
- ・いつ死んでもいいから
- ・その他薬の配合ミス事件
- ・先延ばしています。
- ・我慢できる
- ・毎回生活保護と伝えるのが苦痛だから。他の地域みたく医療券があったらいいと思う
- ・仕事の休みがなかなか平日とれないため
- ・院内感染が不安だから
- ・本人がいやだと言うから
- ・病院に来てくれるまで待っている

(24) 医療費抑制と手帳、年間収入

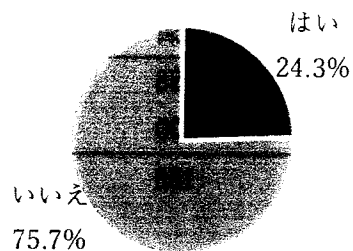
①精神科以外の治療を控えている

手帳あり n=245

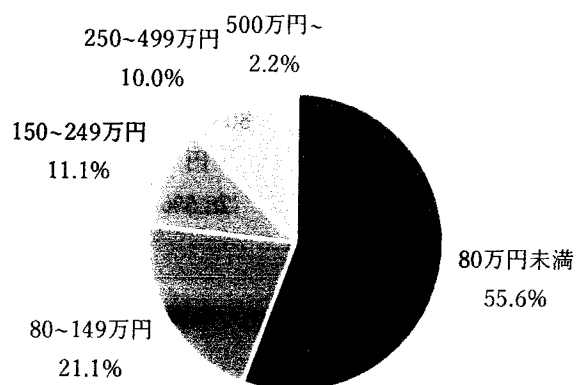


②精神科以外の治療を控えている

手帳なし n=144



③精神科以外の治療を控えている人の年間収入 n=90



- ・精神科以外の治療を控えているのは、全体の4分の1。
- ・理由は経済的なものが最も多い。
- ・半数以上55.6%が年間収入80万円未満である。
- ・手帳あり・なし、年金あり・なしでの差はなかった

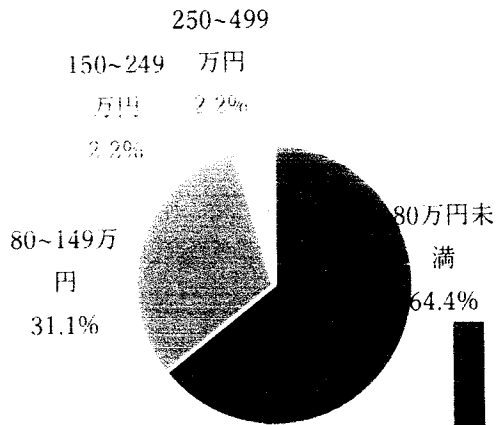
(25) 年間収入×治療形態×手帳の級

①

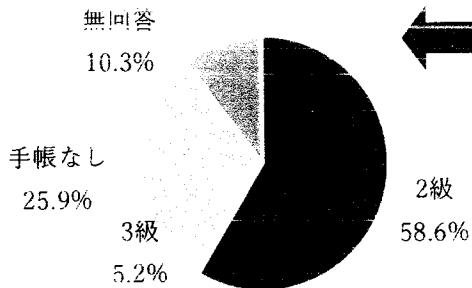
	80万円未満	80~149万円	150~249万円	250~499万円	500万円以上	計
入院中	58	28	2	2	0	90
通院中	130	81	41	30	2	284
	188	109	43	32	2	374

② 入院中

n=90

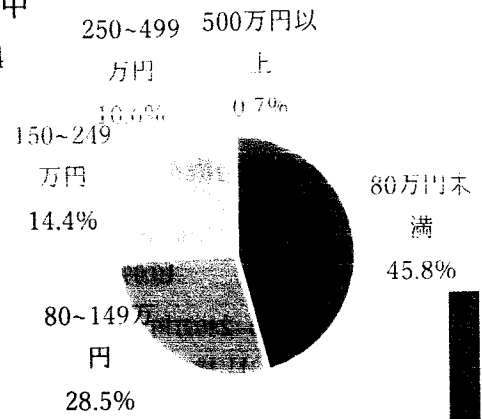


入院中の80万未満の手帳について n=58

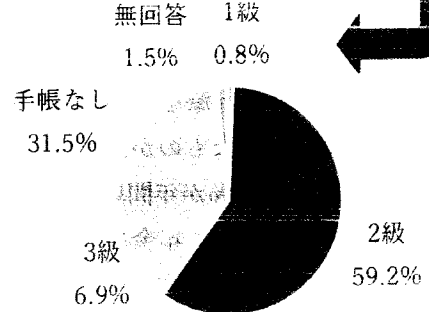


③ 通院中

n=284



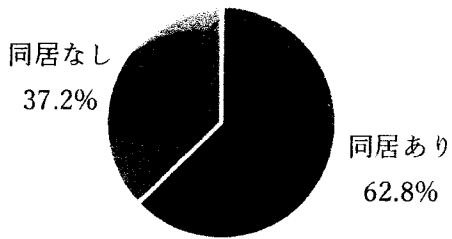
通院中の80万未満の手帳について n=130



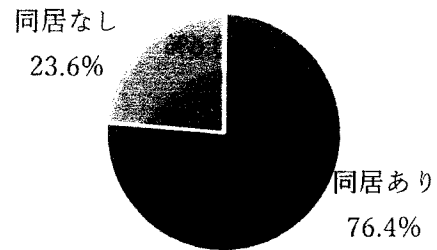
(26) 同居家族の影響について

同居家族×手帳

①同居家族 手帳あり n=247

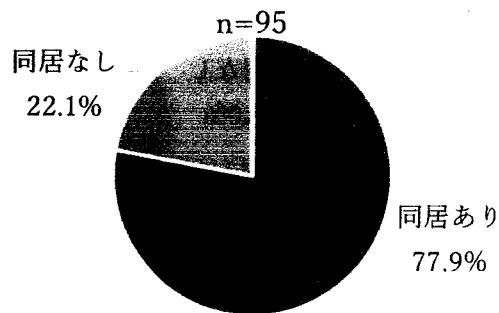


②同居家族 手帳なし n=148



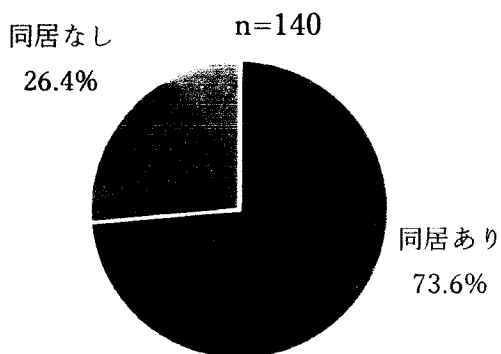
同居家族×精神科以外の治療を控えている

③同居家族 精神科以外の治療を控えている



同居家族×手帳あり・年金あり・通院中

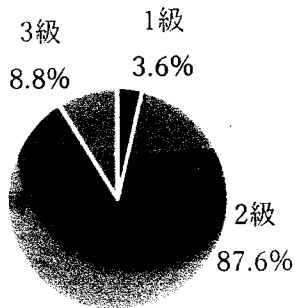
④同居家族 手帳あり・年金あり・通院中



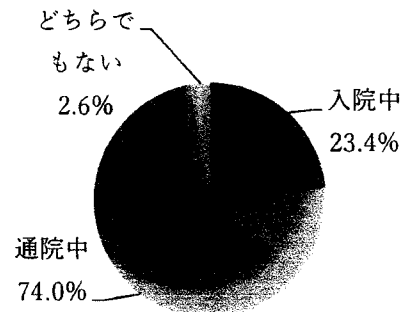
- ・手帳あり、なしに関係なく、同居率は60%を超える。
- ・精神科以外の治療費を抑制している人の同居率は77.9%と高い割合である。
- ・手帳あり、年金ありで通院中の方も同居率は73.6%と高い。

(27) 手帳あり・年金あり の人について

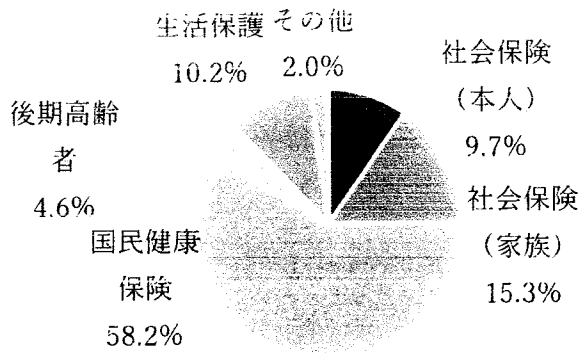
①手帳あり・年金ありn=193の手帳の級



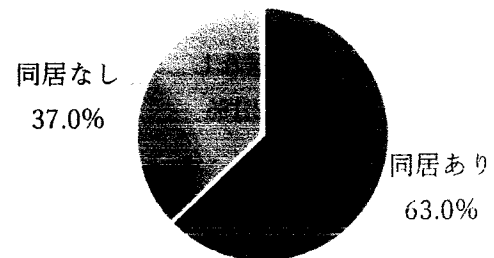
②手帳あり・年金ありn=193 の治療形態



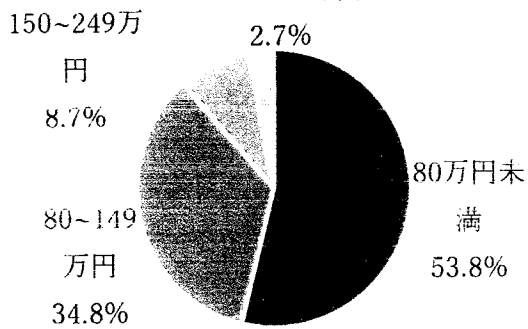
③手帳あり・年金ありn=193の医療保険



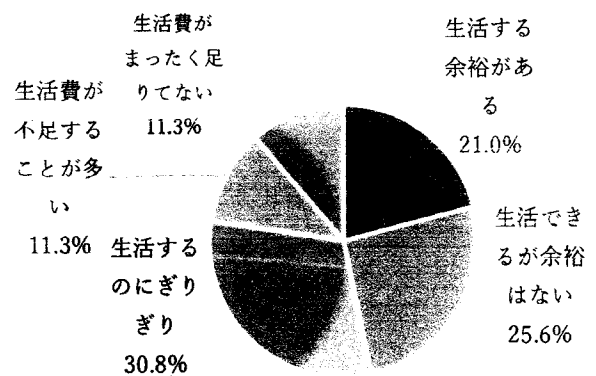
④あり・年金ありn=189 の同居



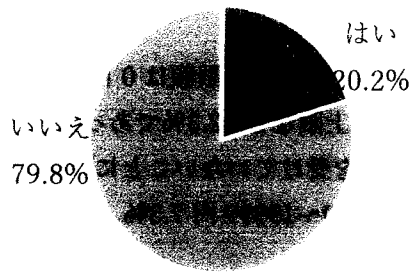
⑤手帳あり・年金あり n=185 の年間収入



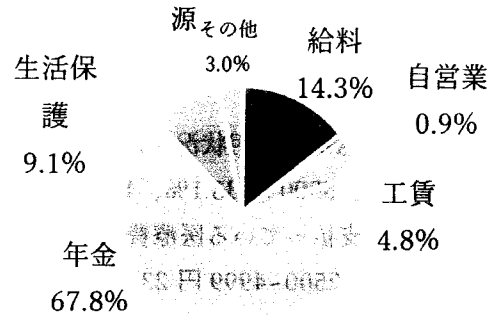
⑥手帳あり・年金ありn=185の暮らし向き



⑦手帳あり・年金あり n=190の
精神科以外の治療を控えている



⑧手帳あり・年金あり n=187の収入



- ・手帳あり、年金あり の場合、通院中が74%
- 年収も53.8%が80万未満である。
- 手帳があり、年金があっても、恵まれた暮らし向きではなく、困窮している人が大半である。
- ・収入源も年金が67.8%、給料を得ている人が14.3%に過ぎず、働けていない現状がうかがえる。

結果の説明

- (1) 年令・性別： ①全回答者426人の年齢分布では50～59歳が最も多く、次いで40～49歳であった。40～59歳の働き盛りが全体の46%を占めた。②男女差では、女性217人(50.9%)、男性206人(48.4%)、無回答3人。
- (2) 現在の治療形態： ①426人全体を見ると、426人のうち通院中70.9%(302人)、入院中23.7%(101人)。
- (3) 治療形態と手帳等級の関係： ①入院中(89人)は、1級4.5%(4人)、2級56.2%(50人)、3級6.7%(6人)。②通院中(294人)は、1級1.7%(5人)、2級52.7%(155人)、3級7.8%(23人)。③全体(383人)は、1級2.3%(9人)、2級53.5%(205人)、3級7.6%(29人)。手帳なしを見ると全体では36.6%(140人)、入院中32.6%(27人)、通院中37.8%(111人)でその割合は入院通院では大きな差がない。入院中では1級であることは、入院費が無料となるので、今後、1級所持者は増えるものと見込まれる。他方、通院中で手帳を持たない人達の多くは軽症である可能性がある。④石川県の精神障害保健福祉手帳所持者数(令和4年3月31日現在)、1級587人(5.9%)、2級8601人(83.3%)、3級1135人(11.0%)とほぼ同様な割合である。
- (4) 利用している医療保険：国民健康保険が全体の44.9%(194人)と半分弱である。次いで、社会保険(本人)が21.1%(95人)、社会保険(家族)16.0%(69人)であった。複数回答は7件のみであった。
- (5) 同居家族：同居家族あり66.6%(281人)の方が多く、同居なし32.4%(138人)、無回答7人。同居家族は父、母の親と同居している割合が多い。
- (6) 年金受給状況(無年金は年金を利用していないことを示す)：全体では障害基礎年金40.0%、障害厚生年金11.7%、老齢年金11.0%、その他の年金8.0%、無年金29.3%である。
手帳等級と年金利用との関係を見ると、1級は障害基礎年金62.5%、無年金12.5%、2級は障害基礎年金58.7%、無年金17.0%に比して、3級は障害基礎年金10.3%、障害厚生年金31.0%、無年金41.4%、手帳なしは障害基礎年金16.1%、無年金51.0%で、手帳の級による障害基礎年金、無年金の割合にかなり差が生じている。
- (7) 年間収入(本人)：80万円未満が49.1%、80～149万円が29.6%と、全体的の4分の3が本人の

- 年間収入が低いことがわかる。
- (8) 年収の種類(複数回答): 複数回答はあるが、年金が 48.3%で約半数、給料は 28.6%、自営業 2.3%、工賃 3.9%で、全体の 34.8%が給料を得ていることになる。その他 9.1% (34 人) のうち、21 人は収入なしである。
 - (9) 自立支援医療の利用状況: 73.6%が自立支援医療費を利用している。上限額は 0 円 6.7%、2500 円 23.2%、5000 円 33.1%、10000 円 22.9%、20000 円 1.8%上限なし 12.3%であった。
 - (10) 一般科で支払っている医療費(月平均): 0 円 19.5%は一般科を受けていないことになる。1~2499 円 27.1%、2500~4999 円 23.7%、5000~9999 円 14.1%、10000~19999 円 7.3%、20000~49999 円 7.1%、50000~99999 円 0.6%、100000 円~0.6%であった。
 - (11) 現在治療を受けている精神科以外の病気: 複数回答あり、歯科が圧倒的に多く、高血圧、皮膚科、眼科と続く。治療形態が通院中の方も、同様であった。精神科以外の治療を受けているのは 281 名で全体の 66.0%、そのうち 213 名(75.8%)は治療形態が通院で、精神科の通院治療を受けながら、他の科も通院で治療を受けている方が多くいる。
 - (12) 暮らし向き: 生活する余裕があるのは 20.1% (85 人) と 5 分の 1 にすぎない。のこりは生活できるが余裕はない 31.1%、生活するのにぎりぎり 26.5%、生活費が不足することが多い 10.9%、生活費が全く足りてない 10.7%と全体の 8 割は余裕のない暮らしをしていることがわかる。
 - (13) 経済的に負担を感じる出費: 食費が群を抜いて最も多く、光熱費、住居費、医療費、通信費と続く。
 - (14) 年間収入から見た比較(手帳の級×年間収入): ②の 2 級の方の 56.8%は年収 80 万円未満でこれは全体の 26.5%約 4 分の 1 である。1 級、3 級に比して 2 級は年収の低い割合が多い。
 - (15) 年間収入(本人)×年収の種類: 年収 80 万円未満、80~149 万円の半数以上が年金を収入源としている。
 - (16) 年間収入(本人)×暮らし向き: 生活に余裕がない割合をみると、80 万円未満は 87.6%、80~149 万円は 77.9%、150 万円以上は 74.7%であった。全体の 7 割強が経済的に苦しい生活を送っている。
 - (17) 年間収入(本人)×医療保険: 年収 80 万円未満、80~149 万円は半数が国民健康保険で、150 万円以上は 67.8%が社会保険(本人)である。年収 149 以下は就労している人が少ないことがわかる。
 - (18) 手帳の級×暮らし向き: 2 級の方が 3 級の方より余裕があると回答した割合が多いが、母数にも差があり、3 級は自身で生計を立てようとし、2 級は家族に頼っているからではないかと考える。
 - (19) 手帳の級×自立支援医療費: 自立支援医療費を利用している人は、1 級では 62.5%、2 級 75.5%、3 級 92.9%、手帳なし 73.3%、と大半が利用している。
 - (20) 手帳の級×医療保険: 手帳所持者はいずれの級も半数が国民健康保険である。
 - (21) 手帳の級×一般科医療費(月平均): 2、3 級、手帳なし、いずれも 75%以内に 5,000 円未満にとどまっている。
 - (22) 年間収入×一般科医療費(月平均): 年収 80 万円未満、80~149 万円、150 万円以上、いずれも 75%以内に 5,000 円未満にとどまっている。
 - (23) 医療費抑制について: 23.3% (95 名) が精神科以外の治療を控えている。理由は「お金がないから」(34 名) が最も多く、次に「行くのが面倒だから」(18 名)、「家族に経済的に負担をかける」(16 名)、「将来の収入が不安」(13 名) というものであった。
 - (24) 医療費抑制と手帳、年間収入: ①②のグラフより、手帳のあり、なしに関係なく、精神科以外の治療費を控えているのは 4 分の 1 であった。③精神科以外の治療を控えている人の年間収入では、80 万円未満が 55.6%で精神科以外の治療を控えている。経済的な影響が大きい。
 - (25) 年間収入×治療形態×手帳の級: 入院中で年間収入 80 万円未満は 58 名でそのうち手帳 2 級は

58.6%34名、通院中で年間収入80万円未満は130名でそのうち手帳2級は59.2%77名、入院も通院も年収80万円未満の方は2級の比率が最も多い。

- (26) 同居家族の影響について：①②手帳あり・なしどちらも同居率は60%を超えるが、手帳なしのほうがやや、同居率は高い。③精神科以外の治療を控えている人の同居は77.9%で家族が経済的に支えていると思われる。④手帳あり、年金あり、通院中も同居73.6%と高い。
- (27) 手帳あり・年金ありの人について：①2級が87.6%、②通院中が74.0%、⑤年収も53.8%が80万円未満である。⑥手帳があり、年金があっても、恵まれた暮らし向きではなく、困窮している人が大半である。⑧収入源も年金が67.8%、給料を得ている人が14.3%に過ぎず、働けていない現状がうかがえる。

4. 考察

(1) はじめに

従来から、精神障害者が経済的に苦しい状況にあり、そのために、必要な医療を受けることすら控えている人達が少なくないといわれてきた。これまで何回か障害者ニーズ調査が行われてきたが、精神障害がおかれている経済的状況、暮らし向き、そして医療費の状況について実態調査が行われたことはなかった。今回、石川県精神障害者家族会連合会が中心となって調査用紙を作成し、それを石川県障害者ニーズ調査に同封させていただくという機会に恵まれました。県当局のご配慮は有難く、その結果についてはできるだけ詳細に分析するように努力しました。

1030件の郵送で426件の回答があり(回答率41.4%)で、十分に分析に耐えうる資料が得られ、協力をいただいた、当事者会、家族会、医療機関、行政当局の方々に感謝いたします。

(2) 基本属性について

調査結果(1)～(4)で示すように、一般収入の高い世代と言われる年齢40～59歳が46%と多く(平均年齢50.8歳)、男女差は殆どなかった。現在の生活が通院と入院かでは通院が70.9%と入院の3倍であったが、精神保健福祉手帳(以降、手帳とよぶ)の等級の割合は両者間でほとんど差がなく、両者を合算して分析することが出来ると判断した。また(5)の同居家族については、66%が家族と同居し、その半数以上が両親と、約4割が配偶者と同居であった。

(3) 利用している医療保険、自立支援医療、一般科での医療費

医療保険では、国民健康(44.9%)、次いで社会保険本人(21.1%)。通院に医際して自立支援医療を利用しているのは73.6%と高率で広く利用されていることがわかる。そして上限額では5,000(33.1%)、2,500円(23.2%)で両者で56.3%と半数以上を占めている。(9-①、②)

他方、一般科の受診では、通院だけをとり、歯科、内科(高血圧、糖尿病、高脂血症)、皮膚科、眼科等が多いことがわかるが、月平均の支払額は、2,499円以下(27.1%)、次いで4,499円以下(23.7%)であるが、9,999円以下が14.1%、1万円以上が15%もいることを忘れてはならない。(10-①、11-②)。281人のうち、全体の66.0%と高率に精神科以外の治療を受診していることが示された。

(4) 年金受給、本人の年収

年金受給では障害基礎年金受給が40.0%であったが、手帳の等級別で見ると、1・2級が60%前後であるが、3級では10.3%と極めて低い。本人の年収(年金を含む)は、80万円未満(49.1%)、150万円未満(29.6%)、両者で78.7%と4分3以上を占めており(6-①、②)、年金受給額だけ、あるいはそれに4万円程度の作業所収入が加えられたに過ぎない(7-①、8-①)。さらに、手帳の等級別で本人の収入を分析すると、2級所持者では、80万円未満が56.8%、150万円未満が29.6%と両者を合わせると86.4%と、2級保持者の殆どが低収入に甘んじていることが示された。(14-①②③、15-

①②③)

(5) 暮らし向き

回答者全員(411人)のうち、「生活する余裕がある」は全体の20.7%に過ぎない。「ぎりぎり～まったく足りていない」が48.2%にも及んでいる。(12-①、13-①)。本人の年収別でみると、「生活する余裕がある」は年収80万円未満では12.4%、150万円未満で22.1%、150万円以上では25.3%と低い年収が生活を苦しめる結果につながっていることが分かる。(16-①②③)。さらに経済的に負担となる出費をみると、「食費、光熱費、住居費、医療費」の順であり、医療費の負担は無視できないものであることが示されている。(13-①)

(6) 手帳の級と医療費の関係(21-①②③)

一般科の医療費は手帳2級では0円(21.9%)、2,500円未満(27.5%)、5,000円未満(20.8%)と比較的廉価に治まっているが、これは、一般科の医療を、お金がないので控えている(23.3%)(23-①②)との関係を重視すべきである。

5. まとめ

1. 精神障害者426人について、手帳の等級、年金の受給、精神障害者手帳、経済的状況、暮らし向きや医療費支払などについて、統計的に調査し、分析することが出来た。
2. 障害者本人では、障害者年金を含めても、年間収入150万円未満が78.7%と全体の4分の3以上が低収入にあることが示された。特に、手帳2級所持者では、一般就労の難しい方、収入源が障害基礎年金という方が大半を占めており、86.4%が前記の低収入に苦しんでいることが明らかとなった。
3. 精神障害者全体(411人)の調査では「生活する余裕がある」は20.7%に過ぎず、年収80万円未満では「余裕がある」と回答したのは12.4%に過ぎなかった。そして「お金がない」ことが理由の中で最も多かった。
4. このような低収入の暮らしの中でも、精神科だけでなく一般科受診(66.0%)が多く、一般科の医療費負担が大きい。そして全体の23.3%が一般科の受診を控えている実情が明らかとなった。
5. アンケート調査の結果、精神障害者の多くは、生活保護以下の苦しい経済状態に苦しんでおり、特に医療費の支払い(一般科)が困難なためにその受診を控えている現状も明らかとなった。

付記 この報告書の作成には、松田、道見(当事者会)、岩尾(精神保健福祉士会)、一ノ宮、松原(医療機関)、中谷(家族会連合会)が協力した。

石川県アンケート調査

該当する□に✓を入れてください。

1. 記入者： 家族・支援者 本人
2. 精神保健福祉手帳の級： 1級 2級 3級 なし
3. 本人の年齢： 17歳以下 18～29歳 30～39歳 40～49歳
50～59歳 60～64歳 65～74歳 75歳以上
4. 本人の性別： 男 女
5. 現在の治療形態：入院中 通院中 どちらでもない
6. 医療保険：社会保険（本人） 社会保険（家族） 国民健康保険
後期高齢者 生活保護 その他（ ）
7. 同居家族：同居しているか はい いいえ（「はい」と答えた方 同居家族すべてに✓を入れてください）
父親 母親 配偶者 子ども 兄弟姉妹 その他（ ）
8. 年金の受給状況
障害基礎年金 障害厚生年金 老齢年金 その他の年金 無年金
9. 年間収入（本人）：
80万円未満 80～149万円 150～249万円 250～499万円 500万円～
10. 年収の種類（本人）：（複数回答可）
給料 自営業 工賃 年金 生活保護 その他（ ）
11. 暮らし向き（収支状況）：生活する余裕がある 生活できるが余裕はない
生活するのにぎりぎり 生活費が不足することが多い 生活費がまったく足りない。
12. 家計における経済的に負担を感じている出費は何か？（複数回答可）
食費 住居費 医療費 交通費 光熱費 通信費 被服費 交際費 遊興費
13. 自立支援医療費：利用している 利用していない
（利用している方は上限額に✓を入れてください）
上限額（月額） 0円 2,500円 5,000円 10,000円 20,000円
上限なし（1割負担）
14. 一般科医療費（月平均）：0円 1～2,499円 2,500～4,999円 5,000～9,999円
10,000～19,999円 20,000～49,999円 50,000～99,999円 100,000～
15. 現在治療を受けている精神科以外の病気：（複数回答可）
歯科 高血圧 糖尿病 高脂血症 心臓病 肝臓病
腎臓病 眼科 皮膚科 外科 整形外科 その他（ ）
16. 医療抑制について
精神科以外の病気の治療を控えていることがありますか はい いいえ
精神科以外の病気の治療を控えている理由：
行くのが嫌だから 行くのが面倒だから 必要がないと思うから お金がないから
家族に経済的に負担をかけるから 必要な収入が将来も得られるか不安だから
その他（ ）

以上です。アンケート調査にご協力いただき有難うございました。

